

✳ Total Beauty Project

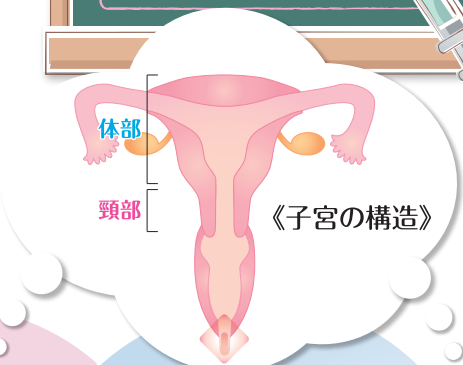
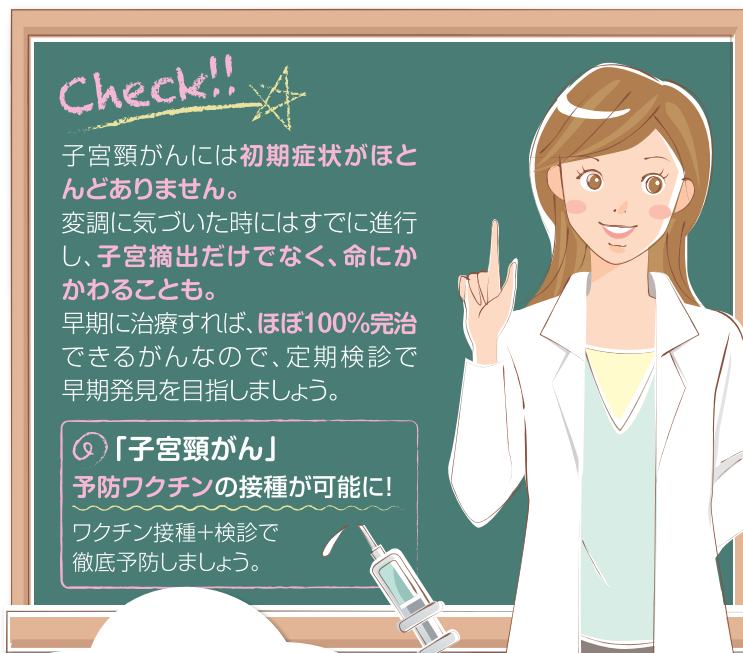
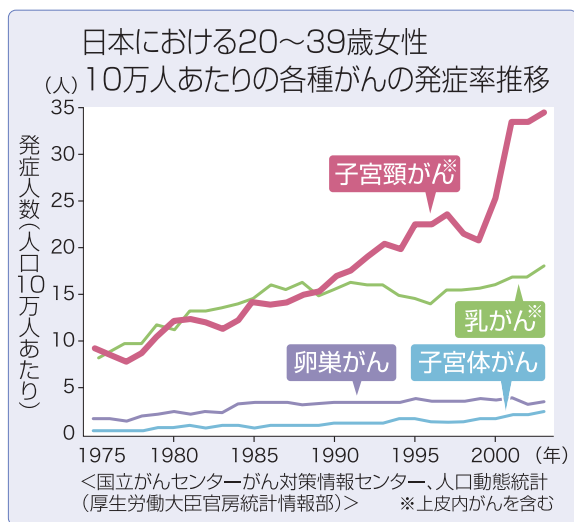
女性必見の健康キーワード! ▶▶▶

子宮がん

若い女性に増加中の「子宮頸がん」、閉経後の女性に多い「子宮体がん」。この2つは同じ子宮がんでも、できる部位や原因が大きく違います。それぞれどんな病気なのか、どんな症状が現れるのか、分かりやすくまとめました。正しい知識を知って、早期発見につなげましょう。

What's 子宮がん?

子宮がんには、子宮の入口(頸部)にできる「子宮頸がん」と、子宮の奥(体部)にできる「子宮体がん」の2種があります。その発生率は7:3で子宮頸がんの方が多いとされています。



20~30代 子宮頸がん の女性は要注意!

セックスにより感染する「HPV(ヒトパピローマウイルス)」が原因であるとされ、約80%の女性が生涯で一度は感染すると言われています。感染しても自然の免疫力で排除されるので、すべての人ががんになるわけではありません。何らかの要因で長期間感染し続けると、5~10年でがんを発症すると言われています。

近年では20~30代の女性に急増中。日本では年間約1万5000人が発症し、3000人近い方が命を落としています。

●症状は?

初期の自覚症状はなく、進行すると下記の症状が現れる場合があります。

- セックス後出血
- 不正出血
- おりものの異常
- 下腹部や腰の痛み

●どんな人がなりやすい?

セックス経験のある女性なら誰でもかかる可能性あり。

●リスクチェック

- 妊娠・出産の回数が多い
- 初めてセックスした年齢が若い
- 免疫力の低下
- セックス経験・パートナーが多い

40~60代 子宮体がん の女性は要注意!

ホルモンのアンバランスによって起こるがん。女性ホルモンの一つであるエストロゲンと深く関わっています。

ホルモンバランスがくずれやすい閉経前後の40~60代に多くみられてきましたが、最近では若年層でも増加傾向にあります。

地方自治体や職場で行われている検診のほとんどが「子宮頸がん検診」です。30代からは「子宮体がん検診」も積極的に受けましょう。

●症状は?

- 不正出血
- おりものの異常
- 下腹部や腰の痛み

●どんな人がなりやすい?

閉経以降にリスクが高くなります。

●リスクチェック

- 生理が不順である
- 閉経している
- 妊娠・出産の経験がない
- 肥満・糖尿病・高血圧の人



早期発見のために、定期検診を受けましょう!!